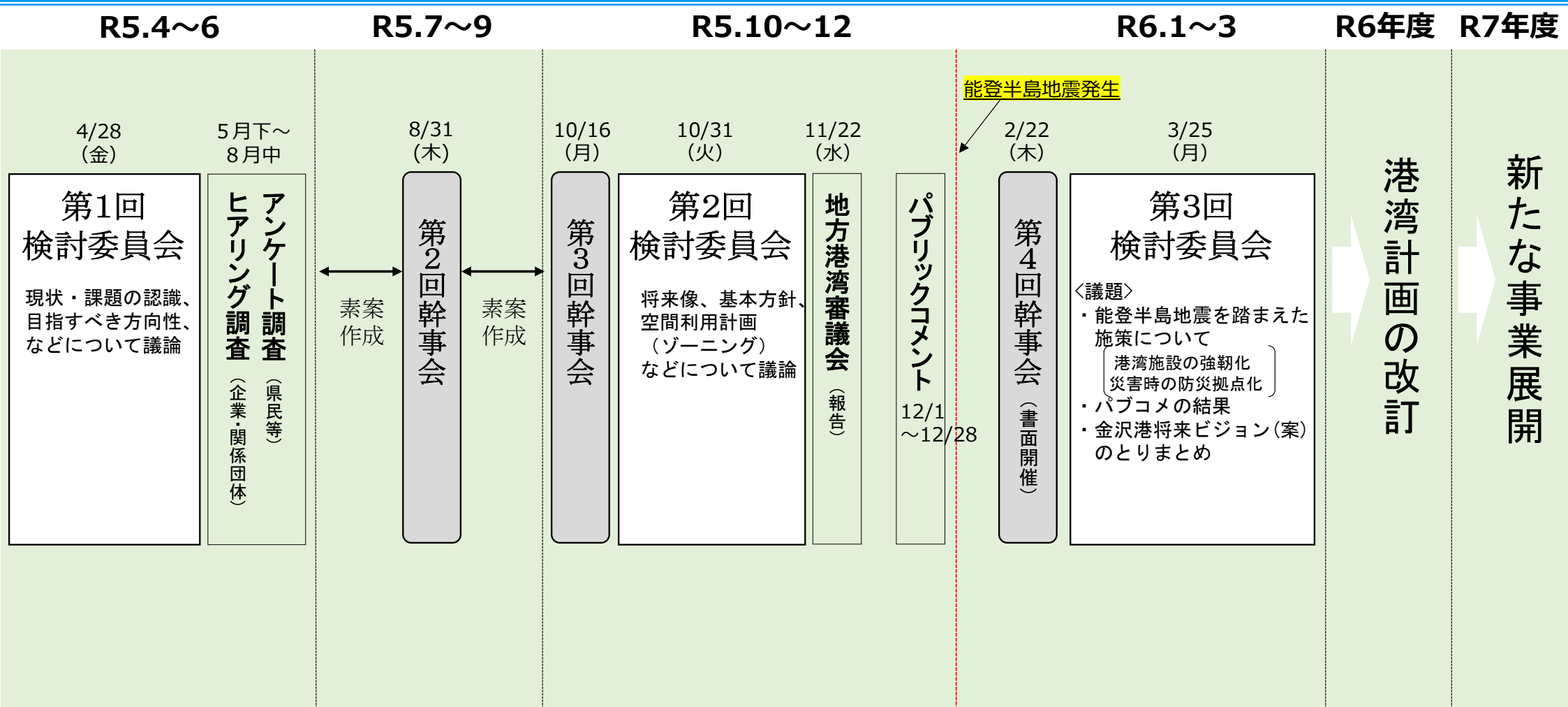




金沢港将来ビジョン検討委員会のスケジュール



能登半島地震を踏まえた施策について

能登半島地震の概要

発生時刻 令和6年1月1日16時10分頃

震源地 石川県能登地方 (震源の深さ ごく浅い)

地震の規模 マグニチュード7.6 (県内の最大震度7)

被害の状況 死者241人 (うち災害関連死15人)

住宅被害 74,110棟

※令和6年3月19日14時00分現在



火災 (輪島市河井町地内)



道路被害 (のと里山海道)



トンネル崩壊 (国道249号)



家屋倒壊 (珠洲市三崎町地内)



建物倒壊 (輪島市河井町地内)



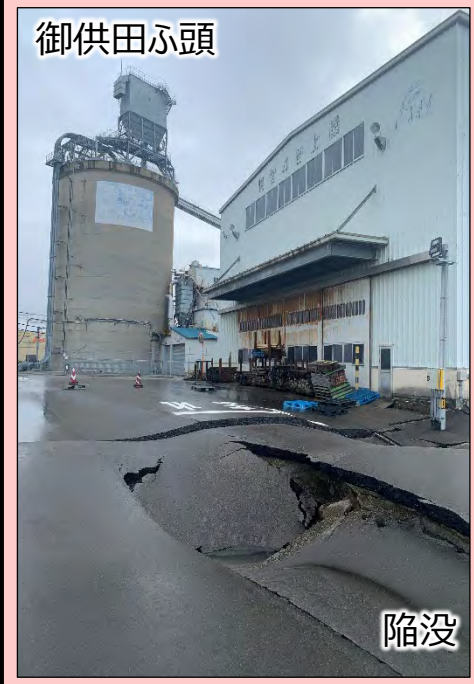
液状化 (内灘町西荒屋地内)



地盤隆起 (鹿磯漁港(輪島市))

金沢港の被害状況

物流機能を担う戸水ふ頭、御供田ふ頭では、岸壁の損傷や、背後用地の液状化による陥没等の被害が広範囲で発生



金沢港における利用状況（地震発生時）

金沢港（無量寺ふ頭）から能登半島への支援物資の海上輸送基地として活躍



地震により、のと里山海道等で崩落多発
⇒限られたアクセスルートに交通が集中し、
渋滞が発生



〔R6.1.10 フェリー-粟国（内航RORO船）〕
金沢港から輪島港に、灯油2,000L、軽油
1,000L、発電機5台を海上輸送。



〔R6.1.14 フェリー-粟国（内航RORO船）〕
金沢港から飯田港に、簡易シャワー、手洗いスタ
ンドを海上輸送。

金沢港で発生した問題点

- ・ 戸水ふ頭、御供田ふ頭(一部)の損傷により、物流（建設機械、セメント、鋼材）の停滞が発生
- ・ 大浜ふ頭への利用転換により、ふ頭用地不足に直面

【地震により発生した問題点】

戸水ふ頭と御供田ふ頭（一部）で岸壁損傷、ふ頭用地の液状化、陥没



【ふ頭用地不足（大浜ふ頭）】



被災した港湾施設の本格復旧に向けて

物流機能を担う戸水ふ頭、御供田ふ頭について、国により早期の本格復旧を目指す。

【被害の大きな港湾施設】

戸水ふ頭、御供田ふ頭

※国有港湾施設であり、被害が大きいため国土交通省により実施

【本格復旧に向けた動き】

- 被災港湾施設復旧技術検討会の実施（国）
（復旧方針の決定（3月18日）計3回開催）



- 工事着手（復旧工法が確定次第）



- 復旧完了（概ね2年以内の復旧完了を目指す）

【港湾利用者の声】

建機、鋼材メーカー、セメント会社から
一日も早い物流機能の復旧が求められている。



能登半島地震を受け、安全・安心に関する施策を以下のとおりとする。

安全・安心の分野

目指すべき将来像	重点戦略	施策の方向性	具体的な施策
安全安心で持続可能な社会を形成する金沢港	大規模地震等に備えた国土強靱化に資する港づくり	〈13〉大規模地震・津波等への対応力強化	見直した施策 <ul style="list-style-type: none">⑬ - 1 大規模災害発生時における物流機能維持に向けた港湾施設の強靱化⑬ - 2 災害に強い防災拠点の構築⑬ - 3 災害支援のための港湾施設の強靱化⑬ - 4 大規模災害発生を想定した定期的な訓練の実施による関係機関との連携強化
		〈14〉港湾施設の長寿命化に向けた戦略的な整備と維持管理	<ul style="list-style-type: none">⑭ - 1 港湾施設の予防保全型インフラメンテナンス⑭ - 2 港内への流入土砂への対応

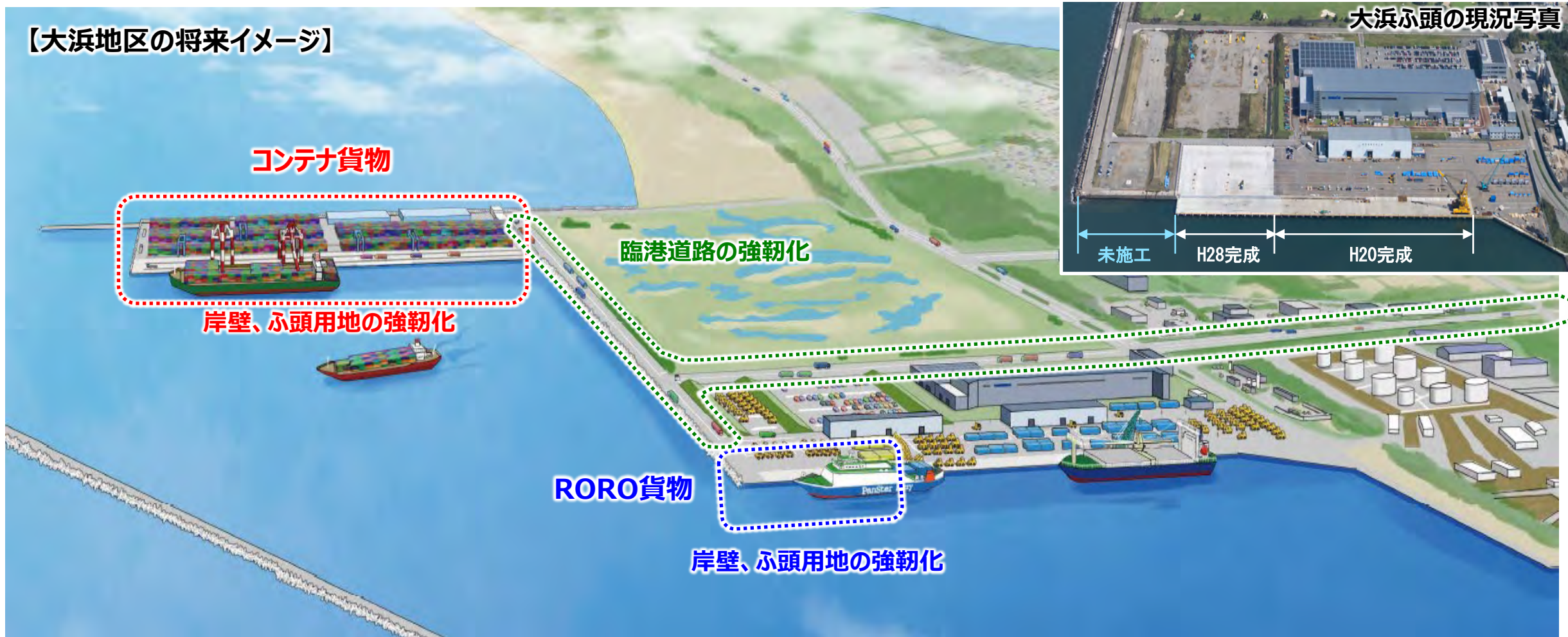
【重点戦略】大規模地震等に備えた国土強靱化に資する港づくり

【⑬大規模地震・津波等への対応力強化】

施策⑬-1：大規模災害発生時における物流機能維持に向けた港湾施設の強靱化

(短期～中期)

【大浜地区の将来イメージ】



大規模災害発生後でも経済活動を維持するため、港湾施設（岸壁、ふ頭用地、臨港道路）の強靱化に取り組み、災害に強い港湾を目指します。

【重点戦略】大規模地震等に備えた国土強靱化に資する港づくり

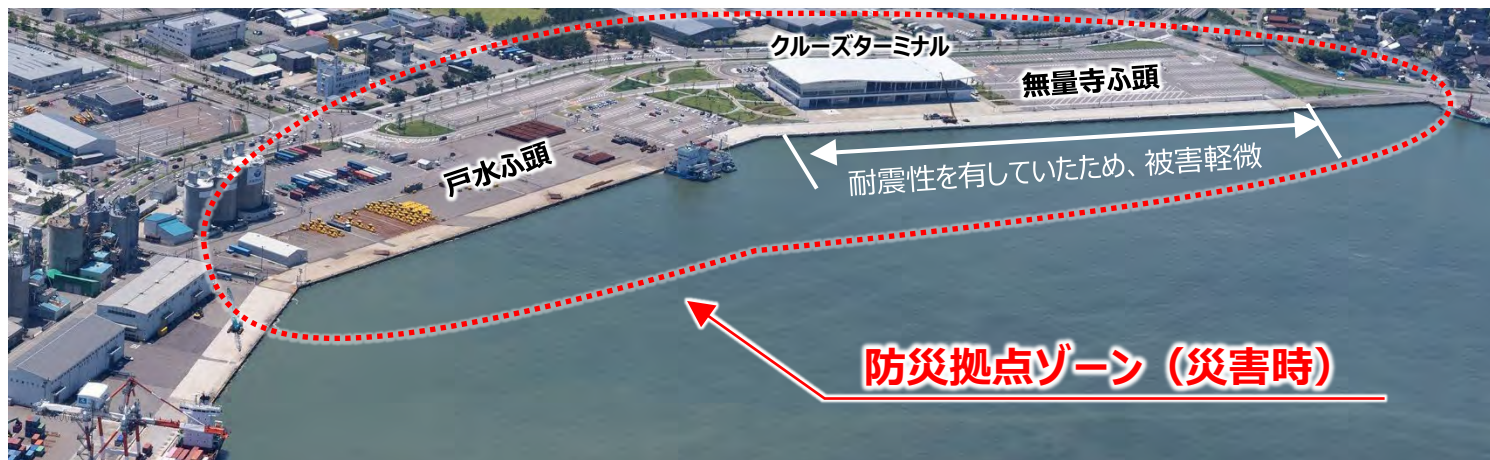
【⑬大規模地震・津波等への対応力強化】

施策⑬-2：災害に強い防災拠点の構築

(短期～中期)

施策⑬-3：災害支援のための港湾施設の強靱化

(短期～中期)



大規模災害発生時に金沢港に必要な拠点機能

- ① 被災地支援への拠点
- ② 水、食料等の緊急物資の輸送拠点
- ③ 被災者が一時的に避難できる拠点
- ④ ヘリが離発着可能な拠点

能登半島地震時の金沢港クルーズターミナルの利用状況

※支援物資の一時保管として利用



写真提供) 日本財団

被災者休養施設用の貨客船 (はくおう)



(七尾港)

能登半島地震時のオープンスペースの利用状況

※自衛隊基地、仮設トイレ等



(飯田港)

無量寺ふ頭、戸水ふ頭エリアを災害時の防災拠点ゾーンとし、クルーズターミナルを核とした防災拠点の構築に努めるとともに、緊急物資等の受入機能を確保できるよう港湾施設（岸壁、ふ頭用地）の強靱化を目指します。

【⑤増加するクルーズ船の受入体制の強化】

施策⑤-1：多様なクルーズ船の誘致と受入体制の強化

ソフト施策（短・中期～長期）

ハード施策（中期～長期）

- ・経済効果の高いクルーズ船(ラグジュアリー船、発着クルーズ)の誘致
- ・北陸新幹線県内全線開業を活用した金沢港発着クルーズの誘致
 - 海外クルーズ見本市への出展や船会社訪問、他港と連携した共同プロモーションの実施、船会社・旅行社等の幹部招へい など
- ・受入体制の強化
 - 多様なクルーズ船受入機能の強化
既存の物流機能に加え、クルーズ船の2隻同時着岸や、大型クルーズ船にも対応できるよう努めることとする。
 - シャトルバスや物販などの充実
利便性向上のためシャトルバスの運行を促進する。
物販や県民による歓送迎の充実を図る。

無量寺ふ頭周辺の将来イメージ



➡ 多様なクルーズ船の誘致を進めるほか、クルーズ船の増加や大型化に対応できるように受入体制の強化を行い、賑わいと交流のある港づくりを目指します。

【⑬大規模地震・津波等への対応力強化】

施策⑬-4：大規模災害発生を想定した定期的な訓練の実施による関係機関との連携強化

(短期)

能登半島地震時の対応

①現地調査

国、県、港湾利用者による
合同現地調査



②被害状況の整理

被害状況を把握し、
施設の利用可否を判断



③応急措置の検討

応急復旧を行い、
試験運用を実施



④岸壁の利用開始

緊急支援物資搬出入の開始



大規模災害が発生した場合でも金沢港の港湾機能を維持できるよう、
関係機関（国、港湾利用者、海上保安庁等）と定期的に訓練を実施し、連携強化を図る。

「金沢港将来ビジョン（案）」に対する パブリックコメントの結果について

パブリックコメントの結果概要

【実施期間】 令和5年12月1日（金）～令和5年12月28日（木）の1か月間

【周知方法】 県のホームページ、SNS、新聞(広報いしかわ)、行政機関窓口など

【寄せられたご意見】 13名（26件）

＜主なご意見＞

物 流

- ・岸壁の大水深化は、温室効果ガスの削減など環境面での効果もあるため実現してほしい … P3 (NO, 6)
- ・経済、産業活動のため、早期の沖合展開の整備を望む … P4 (NO, 8)

賑わい

- ・豪華客船の乗客と県民をつなぐイベントや工夫が足りない … P5 (NO, 14)

レクリエーション

- ・金石大野埋立地の広さを活かし、よそにない空間を創出してほしい … P6 (NO, 18)

安全・安心

- ・防波堤などのハード整備により、海岸環境に影響を及ぼさないよう配慮すべき … P6 (NO, 21)

交 通

- ・金沢港大橋の慢性的な渋滞を解消すべき … P7 (NO, 24)

「金沢港将来ビジョン（案）」に対するパブリックコメントの結果について

- 1 募集期間：令和5年12月1日(金)～令和5年12月28日(木)
- 2 寄せられたご意見：13名（26件）
- 3 意見の概要と考え方について

【対応区分】
 ①ご意見の趣旨は既にビジョンで対応済み
 ②ビジョンに反映する（追加・修正）
 ③ビジョンの推進の際の参考とする
 ④その他

番号	種別	意見の概要	意見に対する考え方	反映結果
1	全般	金沢港で受け入れるもの（ヒト、モノ、次世代エネルギー、その他）について、世界に恥じない国際的な基準や標準を満たした港へと成長すべき。	今回の金沢港将来ビジョンの策定を契機に、より良い金沢港に成長できるよう努めてまいります。	③
2	全般	一度作り上げると直せない側面を持っているため、少しずつ良くしていけるとよい。時期を見極めて改修していけるとよい。	整備について、港湾関係者等と協議を行いながら、段階的に且つ、整備時期を見極めながら整備を進めていきます。	③
3	全般	金沢港の長期計画を象徴づけるキャッチフレーズ（理念）があるとまとまって良いのではないのでしょうか。	金沢港の将来ビジョンを示す基本理念について、これまでの検討結果を踏まえ、設定することとします。	②
4	物流	航路の充実や集貨拡大に向けた施策について、利活用の上で非常に重要な視点であるが、施策が総花的であり、工夫が必要ではないかと考えます。	航路の充実や集貨拡大に向けた施策については、荷主企業や船社などへの聞き取り調査し、金沢港の強みや弱みなどを分析した上で検討しており、いただいたご意見も参考にしながら取り組みを進めてまいります。	③
5	物流	物流の「目指すべき将来像」と「重点戦略」が似通っているのので、「効率的な物流で地域産業を支える港づくり」とかいかがでしょうか。	ご指摘を踏まえ、「北陸の地域産業の発展を支える港づくり」から「効率的な物流で地域産業の発展を支える港づくり」に修正します。	②
6	物流	石川県内で生産した工業製品や食料品を金沢港から大型貨物船で目的地へ直接輸出できるコンテナ岸壁の大水深化は、輸送コストを抑えることで地場産業の競争力強化につながるだけでなく、陸送距離の短縮による温室効果ガスの排出削減にもつながり環境面での効果も期待されるので、ぜひとも実現してほしい。	大浜沖合でのコンテナ岸壁の大水深化について、環境面での効果も期待されるため、早期実現に向け取り組んでいきます。	①

「金沢港将来ビジョン（案）」に対するパブリックコメントの結果について

- 1 募集期間：令和5年12月1日(金)～令和5年12月28日(木)
- 2 寄せられたご意見：13名（26件）
- 3 意見の概要と考え方について

【対応区分】

- ①ご意見の趣旨は既にビジョンで対応済み
- ②ビジョンに反映する（追加・修正）
- ③ビジョンの推進の際の参考とする
- ④その他

番号	種別	意見の概要	意見に対する考え方	反映結果
7	物流	物流施策の中で「利用業種の拡大と保管機能の検討」がありますが、折角の計画ですので、計画策定の中でニーズを把握し、方向性を示すべきではないかと考えますが如何でしょうか。	将来ビジョンは、概ね20～30年後の金沢港の目指すべき姿や施策の方向性を示したものであり、ニーズ把握や方向性に関するご意見については、具体的な取り組みに含まれると考えており、取り組みを進める中で検討してまいります。	③
8	物流	物流について、他港に比べて金沢港の水深が浅いとは驚きました。港湾は経済・産業活動にとって非常に重要なものです。一刻も早い沖合展開の整備を望みます。	コンテナ船の大型化や貨物の増加に対応するため、新たに大浜沖合での整備を展開し、地域間競争に負けない港づくりを目指していきます。	①
9	物流	平常時の産業廃棄物・再生資源の輸送と自然災害発生時の災害廃棄物撤去・移転に関する必要な準備として、港湾施設内に「リサイクルポート機能」を設けることを提案致します。	「リサイクルポート」につきましては、北陸では、新潟県糸魚川市に姫川港が指定されており、広域的に災害廃棄物等を受け入れております。金沢港でのリサイクルポートについては、事業者の参入や周辺住民のご理解など様々な課題があることから、今後の検討課題とさせていただきます。	④
10	クルーズ	クルーズ船受入体制の充実についての記載の中に、外国人の入国に対する審査のことが書かれていないので心配。十分な体制が整備されるようにしてほしい。	外国人の入国審査については、国が行うところであり、県としても、クルーズターミナルにおいて国のサポートを行い、受入に万全を期してまいります。	④
11	クルーズ	クルーズの寄港を楽しみにしており、ターミナルへよく見に行っており、クルーズ船の受入れの機能強化に賛成です。横浜港のようにクルーズ船の基地港も目指していただきたい。	今後、クルーズ船の受入に対する機能強化に努め、他港に負けない、より良い港を目指していきます。	④

「金沢港将来ビジョン（案）」に対するパブリックコメントの結果について

- 1 募集期間：令和5年12月1日(金)～令和5年12月28日(木)
- 2 寄せられたご意見：13名（26件）
- 3 意見の概要と考え方について

【対応区分】

- ①ご意見の趣旨は既にビジョンで対応済み
- ②ビジョンに反映する（追加・修正）
- ③ビジョンの推進の際の参考とする
- ④その他

番号	種別	意見の概要	意見に対する考え方	反映結果
12	賑わい	国際交流センターを金沢港に建設し、人材を集める。例えば、国際高等専門学校や客室乗務員養成学校があれば、必然的に安心・安全のための機能が揃う。公共交通機関や移動手段も整う。物販を学生が体験することで乗船客と学生がwin-winとなるのではないのでしょうか。	クルーズターミナル周辺の土地利用については、今後の開発動向や立地企業の以降も踏まえ、あり方について検討することとしており、いただいたご意見は、今後の取り組みの参考にさせていただきます。	③
13	賑わい	地元や観光客が利用できる漁業関係施設（今の施設より規模の大きい、取れたての魚介を味わえる、体験できる、買えるなどの施設）やアーバンスポーツができる施設を作るなど、人が集まるような仕掛けをしてほしいです。	今回のビジョンでは、クルーズターミナルを核とした賑わい空間の創出を施策の方向性に位置づけており、いただいたご意見は、今後の取り組みの参考にさせていただきます。	③
14	賑わい	豪華客船の乗客と県民をつなぐ、イベントや工夫が足りないように感じる。しっかりと連携させて、石川県ならではの賑わいを創出してほしい。	現在、クルーズ船寄港時には、地元のボランティアによる歓送迎イベントを行っていますが、今後、より良いイベントになる様、工夫し、石川ならではの賑わい創出に努めてまいります。	①
15	賑わい	金沢港周辺で、お土産を買う場所や、気軽にお昼を買える場所が少ない。	クルーズターミナル周辺について、賑わい施設が少ないことから、検討を行うこととしており、いただいた意見は今後の取り組みの参考にさせていただきます。	③
16	賑わい	ライトアップについて、とても良いと思う。ライトアップの範囲を広げてほしい。	現在、クルーズターミナルを中心に港内全体を包み込むようにライトアップ演出しています。今後は、クルーズターミナル周辺の賑わい空間の創出にあわせ、検討してまいります。	③
17	レクリエーション	防波堤を開放している港は少ないので、金沢港へは釣りによく行っています。計画の際には、安全に釣りができる場所を増やしていただくとありがたいです。	みなとを活用した憩い空間の創出を施策としており、釣施設の整備についても、検討してまいります。	③

「金沢港将来ビジョン（案）」に対するパブリックコメントの結果について

- 1 募集期間：令和5年12月1日(金)～令和5年12月28日(木)
- 2 寄せられたご意見：13名（26件）
- 3 意見の概要と考え方について

【対応区分】

- ①ご意見の趣旨は既にビジョンで対応済み
- ②ビジョンに反映する（追加・修正）
- ③ビジョンの推進の際の参考とする
- ④その他

番号	種別	意見の概要	意見に対する考え方	反映結果
18	レクリエーション	金石大野埋立用地は十分な広さがあり、レクリエーション施設を整備するにあたり、大きなポテンシャルを有しているのので、よそには無い憩いと賑わいにあふれる空間を形成してほしい。	実施にあたり、地元の意向も確認し、県民が憩い、楽しめる空間を形成できるよう検討してまいります。	③
19	カーボンニュートラル	太陽光発電施設の整備、洋上風力発電が必要との記載があるが、電源として不安定であること、再エネ賦課金として電気料金に多額の上乗せがされており、導入に反対です。	世界的に地球温暖化への対応が加速している中、港湾における脱炭素化への取り組みは重要と考え、脱炭素化を推進するエリアを示したものであり、太陽光発電施設や洋上風力発電については、あくまで例示であり、具体の計画を示したものではありません。	④
20	カーボンニュートラル	再生可能エネルギー生産拠点の形成促進で、太陽光発電施設も候補のひとつとしてあげていますが、潮風の影響等による劣化が懸念されるので、実施にあたり十分に検討することが必要だと思います。		
21	安全・安心	具体的な整備計画を検討する際、船舶の入出港の安全性を確保するために、防波堤などのハード整備が必要になるとは思いますが、千里浜の再生など周辺環境に影響しないようにしてほしい。	現在、金沢港の環境調査を実施しており、具体的な整備計画を検討する際、ハード整備することによって、どれだけ周辺環境に影響を及ぼすのか評価を行い、問題ないことを確認して進めていきます。	③
22	安全・安心	災害時、金沢港は緊急物資輸送の拠点になりうるのので、対策を十分に検討してほしい。	R6能登半島地震を踏まえ、災害時において、人・緊急物資の受入や被災地への搬出、緊急物資等の一時保管など様々な機能を有する防災拠点の構築に取り組んでまいります。 また、緊急物資等の受け入れや経済活動を停滞させないため、岸壁の耐震性能を向上させ、災害に強い港湾を目指します。	②

「金沢港将来ビジョン（案）」に対するパブリックコメントの結果について

- 1 募集期間：令和5年12月1日(金)～令和5年12月28日(木)
- 2 寄せられたご意見：13名（26件）
- 3 意見の概要と考え方について

【対応区分】
 ①ご意見の趣旨は既にビジョンで対応済み
 ②ビジョンに反映する（追加・修正）
 ③ビジョンの推進の際の参考とする
 ④その他

番号	種別	意見の概要	意見に対する考え方	反映結果
23	交通	「道路ネットワーク強化」では、このまま強化すると臨港線との交差点が心配です。港湾以外の通過交通（能登と金沢・加賀を結ぶ主要幹線）として多く利用されているのが、現状ではないのでしょうか。臨港線との交差点改良（ex立体交差化など）に繋がるような図表示が出来ればと思います。ご検討願います。	「道路ネットワークの強化」は重要な施策と考えており、道路の構造等については、事業を実施する際、検討を行っていきます。	③
24	交通	金沢港大橋は、今でもラッシュ時には慢性的に渋滞しているので、大浜地区で扱う貨物が増えるのを待つことなく、早期に4車線化するべきと考える。	朝夕の渋滞が発生していることは承知しており、4車線化の早期実現に向け取り組んでまいります。	③
25	その他	現在の金沢港は、故中西前石川県知事が石川県や金沢市民のために建造した人造港です。従って、整備を毎年継続しなければなりません。 そこで、昨今の日本海の不安定な状況や単なるコンテナ輸送の港から一歩進化させ、港の将来を考慮して、港湾そのものの整備や、大型客船が岸壁に複数接岸可能になるように整備をしてほしいものです。 そこで、港の周りの環境や観光面に力を入れて、2本立てとする計画を立てる。金沢港と都心部への乗り入れの効率化、金沢港のシンボルを建設、観光客等のおもてなし場（郷土産物等の地元物品販売、船を見に来た人と客船でやってきた人との交流の場）、港湾の環境整備と美化、港湾付近の設備内での娯楽施設の整備、最後に赤字で瀕死の北鉄浅野川線の復興と近代化等を推進し、環境保全に十分留意した港パークを実現させてほしい。	物流機能の強化やクルーズ船の受入体制の強化、金沢港のアクセス向上など頂いた意見については、今後の取り組みの参考にさせていただきます。	③
26	その他	モーダルシフトなどの用語を使わず、日本語で表現してほしい。	語句説明については、巻末資料に記載させていただきます。	①



金沢港将来ビジョン(案) (概要版)



目 次

○はじめに（金沢港将来ビジョン策定の目的）	1
○金沢港の現状	
・金沢港の概要（金沢港の沿革）	1
・金沢港の利用状況	2
○現状、ニーズ調査等を踏まえた課題	
・分類別課題	2
○基本理念、目指すべき将来像と重点戦略及び施策	
・基本理念と目指すべき将来像と重点戦略	4
・施策体系図	5
・重点戦略に基づく施策展開	6
○空間利用計画（ゾーニング）	
・金沢港全体空間利用計画	10
・地区別空間利用計画	11

はじめに (金沢港将来ビジョン策定の目的)

金沢港は、平成14年策定の港湾計画に基づき、ハード整備やソフト施策に取り組むことにより、貨物・クルーズ・賑わいの拠点として大きな変貌を遂げてきました。

一方、将来を見据えると、コンテナ船の大型化や脱炭素化の促進など、金沢港を取り巻く環境の変化が見込まれており、これらの変化に対応するため、長期的視点に立った金沢港の目指すべき姿を描く「金沢港将来ビジョン」を策定することとしました。

また、「金沢港将来ビジョン」の実現に向け、引き続き、具体の計画である「金沢港港湾計画」の改訂を行っていきます。

「金沢港港湾計画」の策定 (平成14年11月)

- 金沢港の主な取り組み**
- 【ハード整備】**
 - ・大浜大水深岸壁整備 (H20)
 - ・機能強化整備 (クルーズターミナル建設 (R2)、貨物上屋の集約 (R1) 等)
 - 【ソフト施策】**
 - ・分区制度の導入 (R3)
 - ・みなとオアシスの登録 (R4)
 - 【貨物・クルーズ・賑わいの拠点として大きく変貌】**
 - ・コンテナ取扱貨物量の増加
 - ・クルーズ船寄港本数の増加
 - ・クルーズターミナル入館者数が開館3年余りで200万人突破 (R5)

【取り巻く環境の変化】コンテナ船の大型化、脱炭素化の促進 等

金沢港の課題

長期的視点に基づく
基本的な方向性
(概ね20~30年)

「金沢港将来ビジョン」の策定

具体的な港湾整備計画
(概ね10~15年)

「金沢港港湾計画」の改訂

金沢港の概要 (金沢港の沿革)

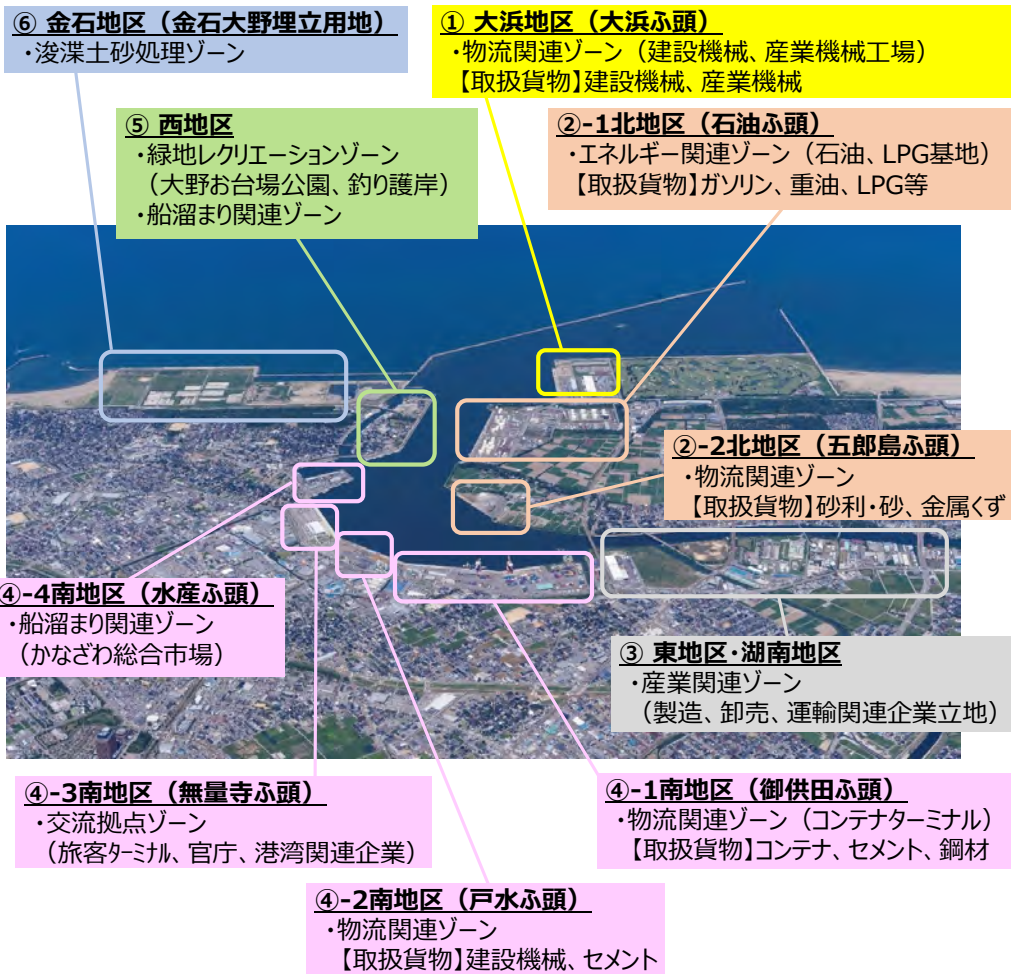
昭和29年に旧大野港、旧金石港を合併し、金沢港となり、その後、昭和38年に豪雪に見舞われ、陸路が遮断したことから、海上輸送の重要性が認識され、大野川の河口を掘り込んで整備を進め、昭和45年に開港しました。

- 1954年 (昭和29年) 旧大野港、旧金石港が合併し金沢港が誕生
- 1963年 (昭和38年) 三八豪雪で、海上輸送の重要性が認識
- 1964年 (昭和39年) 金沢港が港湾法による重要港湾に指定
- 1970年 (昭和45年) 関税法による開港に指定
石油岸壁 (水深7m) 4バース完成
- 1971年 (昭和46年) 県営1号上屋が供用開始
- 1972年 (昭和47年) 戸水岸壁 (水深10m) 2バース完成
金沢みなと開館が完成
- 1973年 (昭和48年) 無量寺岸壁 (水深7.5m) 1バース完成
石油岸壁 (水深7m) 2バース完成
県営穀物サイロが完成
- 1974年 (昭和49年) 大野岸壁 (水深4.5m) 3バース完成
- 1975年 (昭和50年) 無量寺岸壁 (水深7.5m) 2バース完成
- 1978年 (昭和53年) 御供田岸壁 (水深10m) 1バース完成
- 1979年 (昭和54年) 大浜埋立地工事が完成
- 1980年 (昭和55年) 河北潟防潮水門が完成
- 1984年 (昭和59年) 五郎島岸壁 (水深9m) 完成
- 1985年 (昭和60年) 県営2号、3号上屋が供用開始
- 1988年 (昭和63年) 韓国定期コンテナ貨物航路開設
- 1990年 (平成 2年) 御供田岸壁 (水深10m) 1バース完成
- 1992年 (平成 4年) 県営4号上屋が供用開始
- 1995年 (平成 7年) タイヤマウント式クレーンが供用開始
- 1997年 (平成 9年) 中国定期コンテナ貨物航路開設
- 1999年 (平成11年) 御供田岸壁 (水深10m) 1バース完成
県営5号上屋が供用開始
- 2000年 (平成12年) 北米 (東海岸) RORO航路開設
- 2005年 (平成17年) ガントリークレーン1号機が供用開始
- 2008年 (平成20年) 大浜岸壁 (水深13m) 1バース完成
- 2011年 (平成23年) 韓国定期RORO貨物航路開設
- 2012年 (平成24年) 金石大野埋立用地 I 期区間が完成
- 2013年 (平成25年) トランスファークレーンが供用開始
- 2016年 (平成28年) 大浜岸壁 (水深13m) 0.5バース延伸
- 2017年 (平成29年) 「金沢港機能強化整備計画」を策定
- 2018年 (平成30年) ガントリークレーン2号機が供用開始
- 2019年 (平成31年) 県営東部上屋が供用開始
- 2020年 (令和 2年) 金沢港クルーズターミナルが完成
金沢港機能強化整備が完成
金沢港ライトアップの開始
- 2022年 (令和 4年) みなとオアシス金沢港を登録



金沢港の利用状況

金沢港は、大きく10のエリアに区分されており、建設機械や産業機械、コンテナを取り扱う物流関連ゾーンや石油ふ頭を有するエネルギー関連ゾーン、また、クルーズターミナルなどが立地する交流拠点ゾーンや大野お台場公園や釣り護岸が整備された緑地レクリエーションゾーンなど様々な機能を有しています。

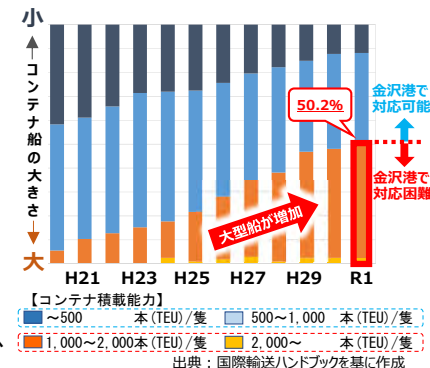


分類別課題

物流に関する課題

(1)コンテナ船の大型化への対応

日本に寄港している韓国・中国航路のコンテナ船は年々大型化が進んでいる一方、金沢港は他港に比べ岸壁水深が浅く、大型コンテナ船が寄港できないことから、引き続き、寄港できる対応が必要となっています。



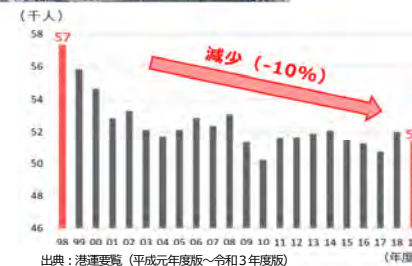
(2)効率的な物流拠点形成に向けたふ頭再編

金沢港のコンテナヤードは不整形で狭いことから、貨物動線が輻輳し、作業効率が悪いいため、利便性の向上が必要となっています。



(3)港湾労働者の確保

全国的に港湾労働者が減少しており、また、今後、生産年齢人口の減少が予想されることから労働力不足が懸念されています。

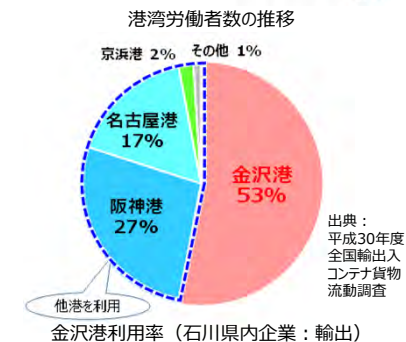


(4)既存航路の増便や更なる方面の拡充

荷主企業から、中国方面などの既存航路の増便や東南アジア航路の開設を求められています。

(5)県内企業の金沢港利用率向上

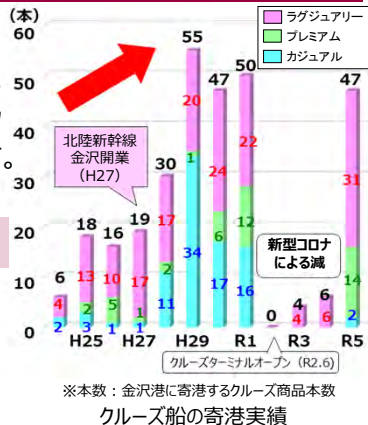
県内企業の金沢港の利用率は、輸出貨物で約5割が他港を利用しているため、利用率の向上が課題となっています。



クルーズ・賑わいに関する課題

(6)クルーズ船の安定的な寄港と受入体制の充実

世界的な日本への旅行需要の高まりなどから、クルーズ船の寄港数や乗船客数が増加傾向であり、こうしたクルーズ需要を金沢港へ取り込むことが重要となっています。

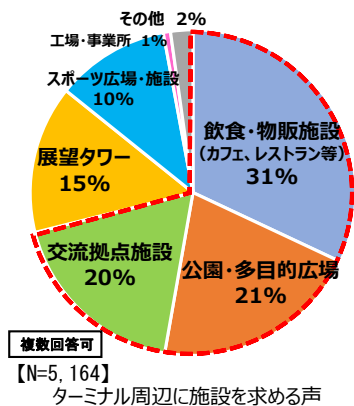


(7)クルーズターミナルを核とした更なる賑わいの創出

クルーズターミナルは、楽しむ場所としての認知度は高まっているが、周辺に賑わい施設が少ないことから、機能拡充を求める声が高まっています。

(8)周辺地域・交流施設との連携強化

周辺地域や交流施設との連携強化により、訪れたい環境の掘り起こしが求められています。



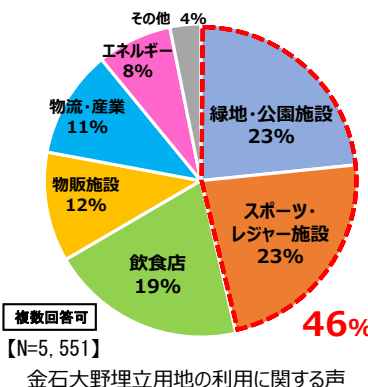
(9)水産業との連携強化

賑わい機能のあるいきいき魚市では、イベント時に、駐車場や道案内が不足しており、クルーズターミナルと水産ふ頭との連携強化が課題となっています。

レクリエーション・緑・景観に関する課題

(10)みなとを活用した憩い空間の向上

金沢港には、整備されてから年数が経過し、時代のニーズに合わない公園などが存在しています。また、土地利用計画の定まっていない金石大野埋立用地では、みなとを活用した憩い空間の向上が求められています。



(11)良好な港景観の形成

金沢港は、物流を担う港として整備されてきた背景から、色彩等の景観コントロールがされておらず、人々が景色を楽しんだり、自然等の心地よく感じる要素が不足していることから、良好な港景観の向上が必要となっています。

カーボンニュートラルに関する課題

- (12)次世代エネルギーの受入・供給拠点への転換
- (13)再生可能エネルギーの活用促進
- (14)港湾施設や荷役機械の脱炭素化
- (15)物流における脱炭素化

石川県では、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指しており、金沢港においても、次世代エネルギーの受入・供給拠点への転換など、脱炭素化に向け取り組む必要があります。



出典：HySTRA
次世代エネルギーの受入・供給基地



ハイブリッド型トランスファークレーン
提供：株式会社三井E&S

安全・安心に関する課題

(16)大規模災害における防災力向上

令和6年能登半島地震では、能登地区の港湾のみならず、金沢港においても岸壁や背後のふ頭用地に大きな被害が生じたため、物流機能に支障をきたしました。一方で、支援物資等を海上輸送する際の基地として、能登への支援に大きく貢献いたしました。このような経験を踏まえ、今後は金沢港においても、災害に強い防災拠点を確保することが求められています。



御供田ふ頭の陥没



自衛隊による支援

(17)港湾施設の老朽化対策

高度経済成長期に集中的に整備した港湾施設の老朽化が進行しており、老朽化対策が課題となっています。



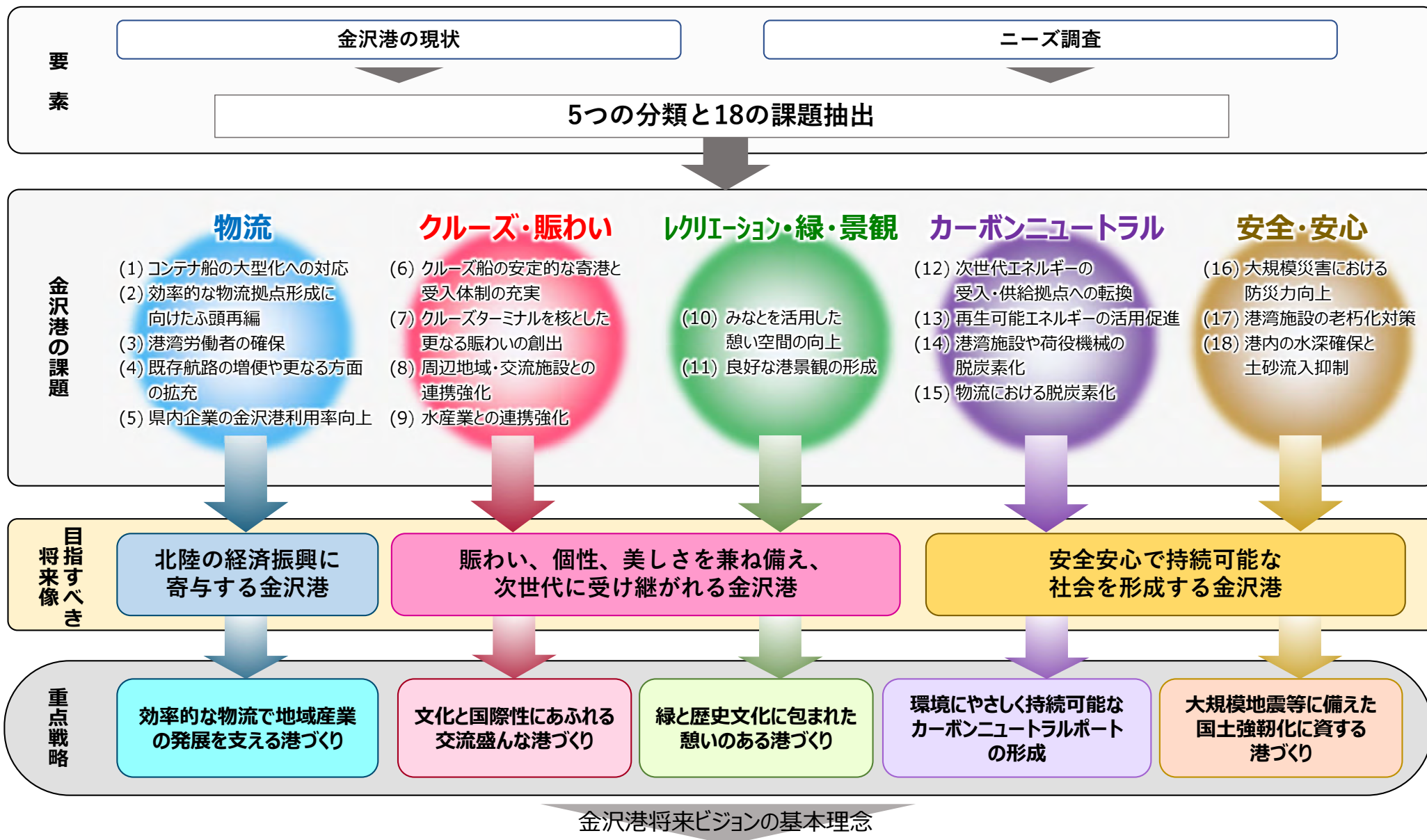
供用後50年以上経過する港湾施設の割合

(18)港内の水深確保と土砂流入抑制

金沢港は、海・川から港内へ土砂の流入が恒常的に発生しており、港内の水深確保と土砂流入抑制に努めていく必要があります。

基本理念と目指すべき将来像と重点戦略

金沢港の特性や現状の課題を踏まえ、3つの目指すべき将来像を定め、日本海側の今後の物流をリードし、クルーズ船寄港を核とした賑わい創出を目指すとともに、今回の能登半島地震を教訓とした災害時にも強い金沢港を目指すため、金沢港将来ビジョンの基本理念として、『**物流の未来を牽引し、賑わいを奏でる強くなやかな金沢港**』を掲げます。



物流の未来を牽引し、賑わいを奏でる強くなやかな金沢港

施策体系図

<基本理念> 物流の未来を牽引し、賑わいを奏でる強くなやかな金沢港

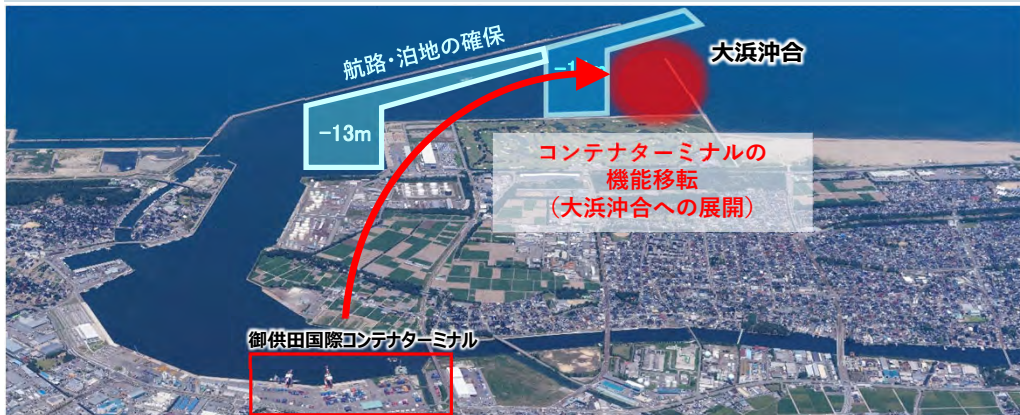
目指すべき将来像	重点戦略	施策の方向性	具体的な施策
北陸の経済振興に寄与する金沢港	物流 効率的な物流で地域産業の発展を支える港づくり	〈1〉コンテナ船の大型化に対応した港湾機能の強化	①-1 大浜沖合でのコンテナターミナルの新設
		〈2〉生産性向上に寄与する効率的な物流拠点の形成	①-2 航路・泊地の確保
		〈3〉航路の充実	②-1 外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化
		〈4〉集貨拡大と荷主の裾野拡大	②-2 物資輸送強化のための道路ネットワークの強化
賑わい、個性、美しさを兼ね備え、次世代に受け継がれる金沢港	クルーズ・賑わい 文化と国際性にあふれる交流盛んな港づくり	〈5〉増加するクルーズ船の受入体制の強化	②-3 取扱貨物の配置転換などによる物流環境の改善
		〈6〉クルーズターミナルを核とした質の高い賑わい空間創出と周辺地域との連携強化	②-4 DXによる物流の効率化
		〈7〉水産業のブランド価値を活用した港の賑わいづくり	③-1 船会社へのポートセールスによる定期航路の維持・拡充
	レクリエーション・緑・景観 緑と歴史文化に包まれた憩いのある港づくり	〈8〉港湾緑地等を利用した新たな憩い空間の創出	④-1 荷主企業へのポートセールスによる集貨拡大
		〈9〉歴史文化と近代的な都市景観が共存する港景観づくり	④-2 利用業種の拡大と保管機能の検討
			⑤-1 多様なクルーズ船の誘致と受入体制の強化
			⑤-2 クルーズ船寄港による経済効果の県内全域への波及促進
安全安心で持続可能な社会を形成する金沢港	カーボンニュートラル 環境にやさしく持続可能なカーボンニュートラルポートの形成	〈10〉新たなエネルギーの供給拠点・生産拠点となるGXポートの形成促進	⑥-1 民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出
		〈11〉港湾施設の脱炭素化の推進	⑥-2 クルーズターミナル周辺の土地利用や規制のあり方を検討
		〈12〉モーダルシフトの推進	⑥-3 クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上
	安全・安心 大規模地震等に備えた国土強靱化に資する港づくり	〈13〉大規模地震・津波等への対応力強化	⑥-4 金沢港～金沢駅間のアクセス向上
		〈14〉港湾施設の長寿命化に向けた戦略的な整備と維持管理	⑦-1 水産関連ゾーンと交流拠点の連携強化
			⑧-1 時代のニーズにあった公園・緑地などのリニューアル
			⑧-2 金石大野埋立用地での新たな憩いの空間の創出
			⑧-3 金石海岸での海岸レクリエーションゾーンの形成
			⑨-1 臨海部における景観形成ルールの策定
			⑩-1 次世代エネルギー受入・供給拠点の形成促進
			⑩-2 再生可能エネルギー生産拠点の形成促進
			⑩-3 新たなエネルギー拠点への道路ネットワークの強化
			⑪-1 荷役機械の電動化、陸上電力供給施設の充実 等
			⑫-1 金沢港への利用転換によるCO2排出量の削減
			⑬-1 大規模災害発生時における物流機能維持に向けた港湾施設の強靱化
			⑬-2 災害に強い防災拠点の構築
			⑬-3 災害支援のための港湾施設の強靱化
			⑬-4 大規模災害発生を想定した定期的な訓練の実施による関係機関との連携強化
			⑭-1 港湾施設の予防保全型インフラメンテナンス
			⑭-2 港内への流入土砂への対応

重点戦略に基づく施策展開

【重点戦略】 効率的な物流で地域産業の発展を支える港づくり

〈1〉コンテナ船の大型化に対応した港湾機能の強化

- 施策①-1：大浜沖合でのコンテナターミナルの新設
- 施策①-2：航路・泊地の確保（-13m～14m化）



コンテナ船の大型化やコンテナ貨物の増加に対応するため、これまでの御供田ふ頭から大浜沖合に新たなコンテナターミナルを機能移転し、地域間競争に負けない港づくりを目指します。

〈2〉生産性向上に寄与する効率的な物流拠点の形成

- 施策②-1：外貨貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化
- 施策②-2：物資輸送強化のための道路ネットワークの強化



戸水ふ頭から大浜国際物流ターミナルへの外貨貨物の集約に加え、貨物や大型クルーズ船の増大に対応するため、大浜岸壁を延伸させ、貨物船(4万トン級)の2隻同時着岸や、大型クルーズ船と貨物船との2隻同時着岸も可能となるよう機能強化を図るとともに、物資輸送強化のための道路ネットワークの強化を図ります。

施策②-3：取扱貨物の配置転換などによる物流環境の改善

大浜沖合へのコンテナターミナル移転後、五郎島ふ頭から御供田ふ頭へ砂利・砂や金属くずの貨物を配置転換し、物流環境の改善を目指します。

配置転換後は、五郎島ふ頭を海上保安庁巡視船、作業船などの船溜まりゾーンとして確保します。

施策②-4：DXによる物流の効率化

港業務の手続きを電子化するとともに、岸壁予約状況などをリアルタイムに把握できるデジタル環境を整え、港湾物流全体の生産性向上と労働環境改善を目指します。

〈3〉航路の充実

施策③-1：船会社へのポートセールスによる定期航路の維持・拡充

積極的な船会社へのポートセールス・支援などにより、定期航路の維持・拡充を図ります。

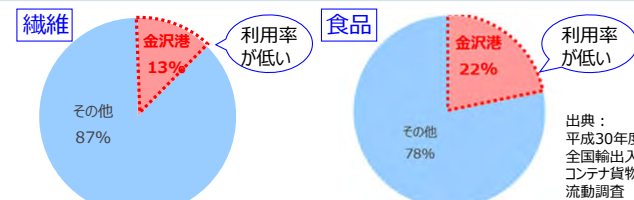
〈4〉集貨拡大と荷主の裾野拡大

施策④-1：荷主企業へのポートセールスによる集貨拡大

積極的な荷主企業へのポートセールス・支援などにより、金沢港への集貨拡大を図ります。

施策④-2：利用業種の拡大と保管機能の検討

金沢港の利用業種の拡大を図るため、関係者の連携強化等により、利用荷主の裾野を広げるよう取り組みます。



県内企業の輸出貨物の金沢港利用率

施策の目標時期

施策の方向性	具体的な施策	目標時期		地区
		短・中期	長期	
〈1〉コンテナ船の大型化に対応した港湾機能の強化	①-1 大浜沖合でのコンテナターミナルの新設	■		大浜地区
	①-2 航路・泊地の確保		■	大浜地区
〈2〉生産性向上に寄与する効率的な物流拠点の形成	②-1 外貨貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化	■		大浜地区
	②-2 物資輸送強化のための道路ネットワークの強化	■		大浜地区 北地区 等
	②-3 取扱貨物の配置転換などによる物流環境の改善		■	北地区 南地区
	②-4 DXによる物流の効率化	■		—
〈3〉航路の充実	③-1 船会社へのポートセールスによる定期航路の維持・拡充	■		—
〈4〉集貨拡大と荷主の裾野拡大	④-1 荷主企業へのポートセールスによる集貨拡大	■		—
	④-2 利用業種の拡大と保管機能の検討	■		—

【重点戦略】文化と国際性にあふれる交流盛んな港づくり

〈5〉増加するクルーズ船の受入体制の強化

施策⑤-1：多様なクルーズ船の誘致と受入体制の強化

- ・経済効果の高いクルーズ船(ラグジュアリー船、発着クルーズ)の誘致
- ・北陸新幹線県内全線開業を活用した金沢港発着クルーズの誘致
→海外クルーズ見本市への出展や船会社訪問、他港と連携した共同プロモーションの実施、船会社・旅行社等の幹部招へい など
- ・受入体制の強化
→多様なクルーズ船受入機能の強化
既存の物流機能に加え、クルーズ船の2隻同時着岸や、大型クルーズ船にも対応できるよう努めることとする。
→シャトルバスや物販などの充実
利便性向上のためシャトルバスの運行を促進する。
物販や県民による歓送迎の充実を図る。



多様なクルーズ船の誘致を進めるほか、クルーズ船の増加や大型化に対応できるよう受入体制の強化を行い、賑わいと交流のある港づくりを目指します。

施策⑤-2：クルーズ船寄港による経済効果の県内全域への波及促進

寄港地ツアーの多様化を図ることで、金沢港の周辺地域や加賀・能登、さらには、北陸全域での経済効果の波及を目指します。

〈6〉クルーズターミナルを核とした質の高い賑わい空間創出と周辺地域との連携強化

- 施策⑥-1：民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出
- 施策⑥-2：クルーズターミナル周辺の土地利用や規制のあり方を検討

〈クルーズターミナル周辺の状況〉



〈位置図〉



新たな滞在型の観光拠点と金沢港が連携し、より一層の賑わい空間の創出を図る。

クルーズターミナル周辺や金沢リンクス周辺について、民間事業者とともに人々が集い、交流ができる質の高い賑わい空間の創出を図ります。

また、今後の開発動向や立地企業の意向なども踏まえた、土地利用や規制のあり方について検討を行います。

施策⑥-3：クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上



歩行空間の確保やサイクリング環境の向上を図るとともに、交通事業者や市、地元が連携した地域運営交通やEVカート、水上バスなど、多様な移動手段を活用し、回遊性向上を目指します。

施策⑥-4：金沢港～金沢駅間のアクセス向上

第3次金沢交通戦略に基づき、50m道路でのバス路線の強化や、モビリティハブの充実、デジタル交通サービスの活用など、金沢港周辺におけるバス等のサービス水準向上を目指します。
また、クルーズ船寄港時やイベント開催時における事業者によるシャトルバス運行の充実を促します。

〈7〉水産業のブランド価値を活用した港の賑わいづくり

施策⑦-1：水産関連ゾーンと交流拠点の連携強化

水産関連ゾーンとクルーズターミナルの駐車場との連携や、歩行動線の改善、案内サインの充実など連携強化に努めます。

施策の目標時期

施策の方向性	具体的な施策	目標時期		地区
		短・中期	長期	
〈5〉増加するクルーズ船の受入体制の強化	⑤-1 多様なクルーズ船の誘致と受入体制の強化	→	ソフト施策 → ハード施策	南地区
	⑤-2 クルーズ船寄港による経済効果の県内全域への波及促進	→	→	-
〈6〉クルーズターミナルを核とした質の高い賑わい空間創出と周辺地域との連携強化	⑥-1 民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出	→	→	南地区
	⑥-2 クルーズターミナル周辺の土地利用や規制のあり方を検討	→	→	南地区
	⑥-3 クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上	→	→	南地区 西地区等
	⑥-4 金沢港～金沢駅間のアクセス向上	→	→	南地区
〈7〉水産業のブランド価値を活用した港の賑わいづくり	⑦-1 水産関連ゾーンと交流拠点の連携強化	→	→	南地区

【重点戦略】 緑と歴史文化に包まれた憩いのある港づくり

〈8〉港湾緑地等を利用した新たな憩い空間の創出

施策⑧-1：時代のニーズにあった公園・緑地などのリニューアル

クルーズターミナル周辺の公園



港と自然が調和した、魅力ある緑地空間へのリニューアルに努めます。



施策⑧-2：金石大野埋立用地での新たな憩いの空間の創出

施策⑧-3：金石海岸での海岸レクリエーションゾーンの形成



土地利用のイメージ



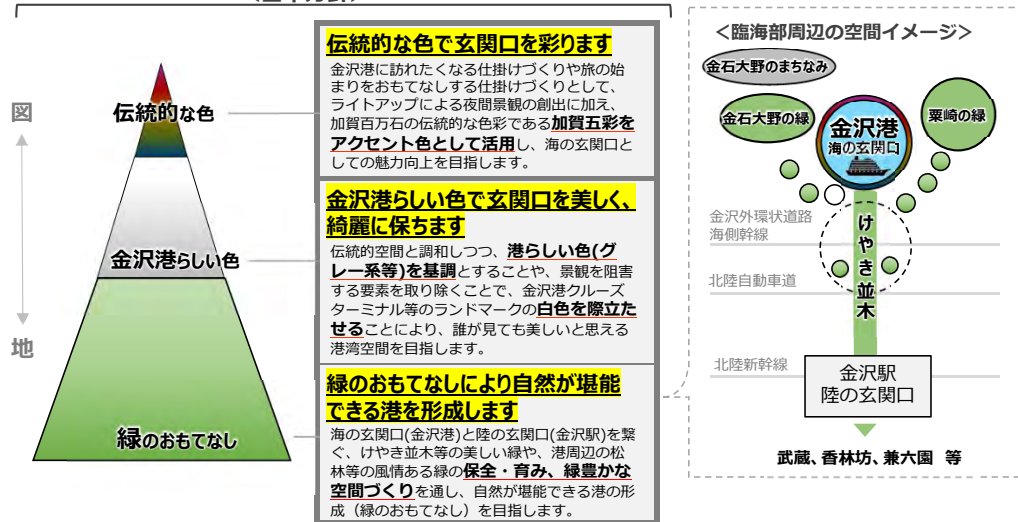
金石大野埋立用地や隣接する金石海岸を県民が憩い、集えるレクリエーションの場やマリトレジャーなどが楽しめる空間とするため、**地域住民と連携し、検討を進めます。**

〈9〉歴史文化と近代的な都市景観が共存する港景観づくり

施策⑨-1：臨海部における景観形成ルールの方策

〈テーマ〉海の玄関口にふさわしい優美で緑に包まれた港景観を目指して

〈基本方針〉



- ① 港全体（遠景）では、グレー系を基調とし、ランドマークとなる建物は白色系とするなど、港の中でランドマークとなる建物を際立たせます。
- ② 近景では、伝統的な加賀五彩を品よく際立たせるため、建物や工作物などにアクセント色として活用します。

「臨海部における景観形成ルールの方策」を金沢市と連携し検討を進め、昔からの自然や歴史と近代的な都市景観が共存する金沢港の新たな顔づくりを目指します。

施策の目標時期

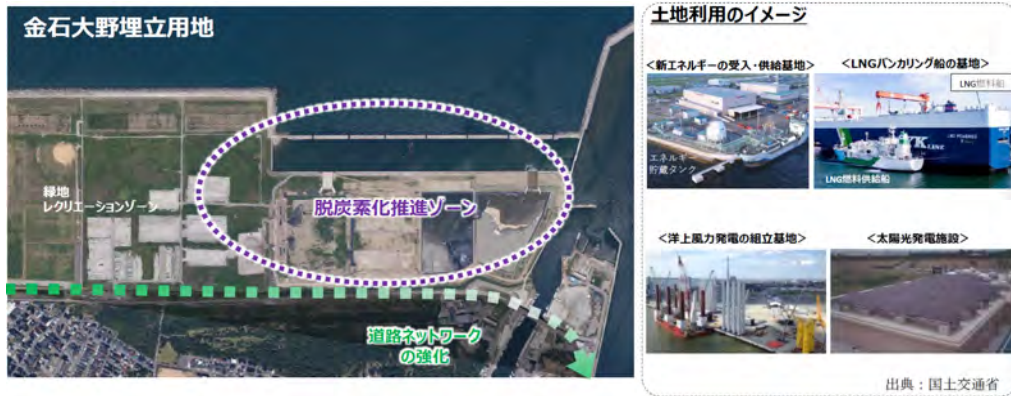
施策の方向性	具体的な施策	目標時期		地区
		短中期：概ね15年後	長期：概ね30年後	
〈8〉 港湾緑地等を利用した新たな憩い空間の創出	⑧-1 時代のニーズにあった公園・緑地などのリニューアル	→	→	南地区
	⑧-2 金石大野埋立用地での新たな憩いの空間の創出	→	→	金石地区
	⑧-3 金石海岸での海岸レクリエーションゾーンの形成	→	→	金石地区
〈9〉 歴史文化と近代的な都市景観が共存する港景観づくり	⑨-1 臨海部における景観形成ルールの方策	→	→	—

【重点戦略】環境にやさしく持続可能なカーボンニュートラルポートの形成

〈10〉新たなエネルギーの供給拠点・生産拠点となるGXポートの形成促進

- 施策⑩-1：次世代エネルギー受入・供給拠点の形成促進
- 施策⑩-2：再生可能エネルギー生産拠点の形成促進
- 施策⑩-3：新たなエネルギー拠点への道路ネットワークの強化

金石大野埋立用地の一部を脱炭素化推進ゾーンと位置付け、今後の社会の動向を注視しながら、**新たなエネルギーに対する要請に応じて活用する用地として検討していきます。**



〈11〉港湾施設の脱炭素化の推進

- 施策⑪-1：荷役機械の電動化、陸上電力供給施設の充実等

カーボンニュートラルポートの形成に向け、官民が連携して取り組み、**新技術の開発動向を注視しながら、港湾施設の脱炭素化を進めます。**

〈12〉モーダルシフトの推進

- 施策⑫-1：金沢港への利用転換によるCO2排出量の削減

官民一体となったポートセールスや荷主企業への支援を行うことで、**県内企業に金沢港への利用転換を推進し、CO2排出量の削減を目指します。**

施策の目標時期

施策の方向性	具体的な施策	目標時期		地区
		短・中期 短中期：概ね15年後 長期：概ね30年後	長期	
〈10〉新たなエネルギーの供給拠点・生産拠点となるGXポートの形成促進	⑩-1 次世代エネルギー受入・供給拠点の形成促進	■	■	金石地区
	⑩-2 再生可能エネルギー生産拠点の形成促進	■	■	金石地区
	⑩-3 新たなエネルギー拠点への道路ネットワークの強化	■	■	金石地区
〈11〉港湾施設の脱炭素化の推進	⑪-1 荷役機械の電動化、陸上電力供給施設の充実等	■	■	-
〈12〉モーダルシフトの推進	⑫-1 金沢港への利用転換によるCO2排出量の削減	■	■	-

【重点戦略】大規模地震等に備えた国土強靱化に資する港づくり

〈13〉大規模地震・津波等への対応力強化

- 施策⑬-1：大規模災害発生時における物流機能維持に向けた港湾施設の強靱化

大規模災害発生後においても継続して経済活動を維持できるよう、**港湾施設の強靱化に取り組み、災害に強い港湾を目指します。**

- 施策⑬-2：災害に強い防災拠点の構築
- 施策⑬-3：災害支援のための港湾施設の強靱化

無量寺ふ頭、戸水ふ頭エリアを災害時の防災拠点ゾーンとし、十分なオープンスペースを確保し、**クルースターミナルを核とした防災拠点の構築に努めるとともに、緊急物資等の受入機能を確保できるよう、港湾施設（岸壁、ふ頭用地）の強靱化を目指します。**

- 施策⑬-4：大規模災害発生を想定した定期的な訓練の実施による関係機関との連携強化

大規模災害が発生した場合でも金沢港の港湾機能を維持できるよう、国、港湾利用者、海上保安庁等の**関係機関と大規模災害発生を想定した訓練を定期的実施し、連携強化を図っていきます。**

〈14〉港湾施設の長寿命化に向けた戦略的な整備と維持管理

- 施策⑭-1：港湾施設の予防保全型インフラメンテナンス

老朽化した**港湾施設の戦略的な維持管理による施設の長寿命化及び更新費用のコスト削減を図ります。**

- 施策⑭-2：港内への流入土砂への対応

港内への流入土砂の浚渫により水深を確保し、船舶の航行安全向上を図ります。

施策の目標時期

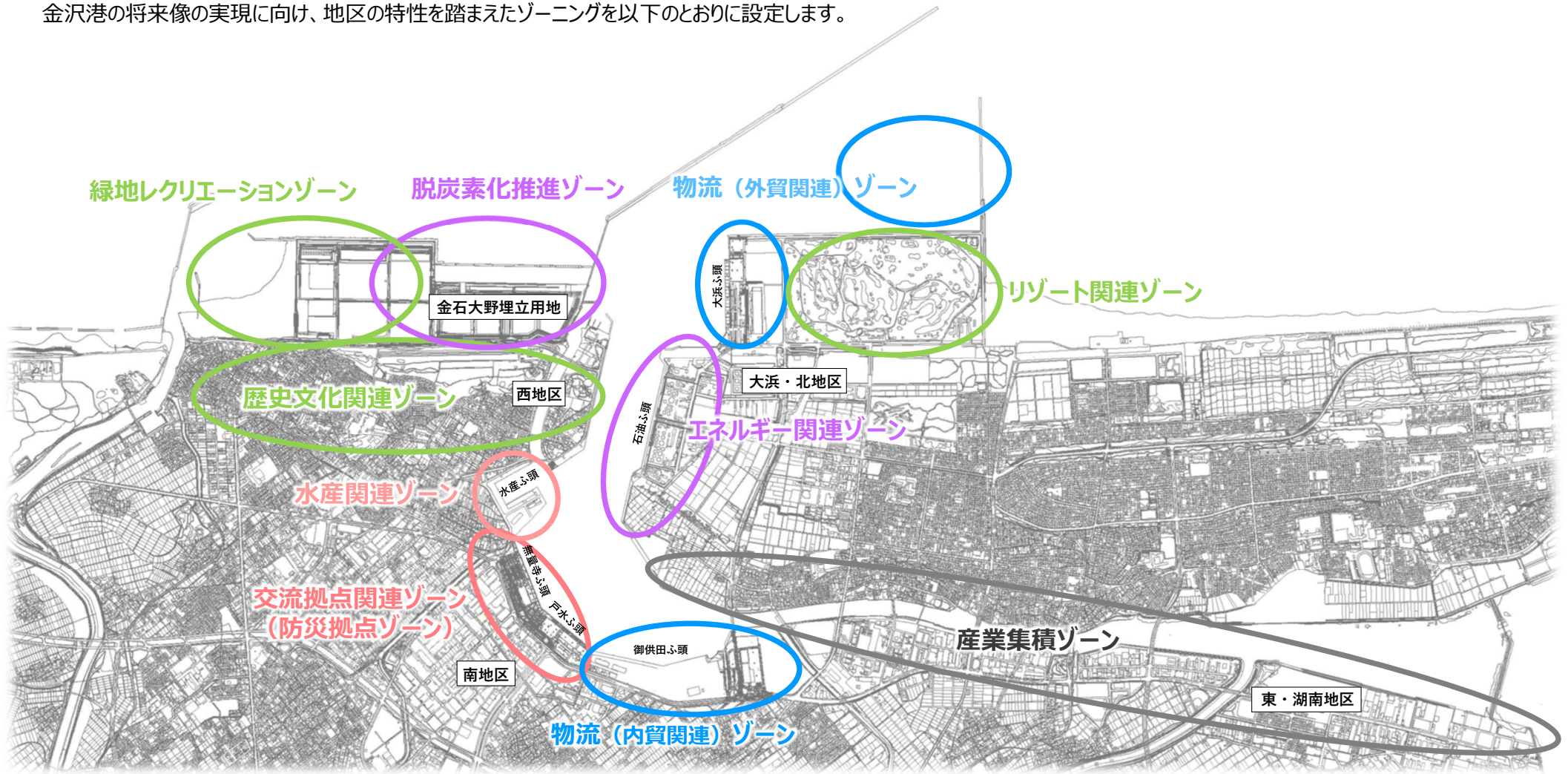
施策の方向性	具体的な施策	目標時期		地区
		短・中期 短中期：概ね15年後 長期：概ね30年後	長期	
〈13〉大規模地震・津波等への対応力強化	⑬-1 大規模災害発生時における物流機能維持に向けた港湾施設の強靱化	■	■	大浜地区
	⑬-2 災害に強い防災拠点の構築	■	■	南地区
	⑬-3 災害支援のための港湾施設の強靱化	■	■	南地区
	⑬-4 大規模災害発生を想定した定期的な訓練の実施による関係機関との連携強化	■	■	-
〈14〉港湾施設の長寿命化に向けた戦略的な整備と維持管理	⑭-1 港湾施設の予防保全型インフラメンテナンス	■	■	-
	⑭-2 港内への流入土砂への対応	■	■	-

【大浜地区の将来イメージ】



金沢港全体空間利用計画

金沢港の将来像の実現に向け、地区の特性を踏まえたゾーニングを以下のとおりに設定します。



物流(外貿関連)ゾーン

コンテナ貨物やRORO貨物といった外貿貨物を取扱うゾーン

物流(内貿関連)ゾーン

セメントや砂利・砂、鋼材などの内貿貨物を取扱うゾーン

交流拠点関連ゾーン(防災拠点ゾーン)

クルーズターミナルを核とした賑わい空間を創出するゾーン。(大規模災害発生時は防災拠点として機能)

水産関連ゾーン

水産物の水揚げや販売などを行う水産物を取扱うゾーン

産業集積ゾーン

臨海部に立地する企業が産業活動を行うゾーン

エネルギー関連ゾーン

石油基地やLPG基地などエネルギーを取扱うゾーン

脱炭素化推進ゾーン

新たなエネルギーに対する要請に応じて活用するゾーン

緑地レクリエーションゾーン

金石の緑地や海岸を楽しむことができるレクリエーションゾーン

リゾート関連ゾーン

民間事業者と連携した新たな滞在型の観光拠点を創出するゾーン

歴史文化関連ゾーン

歴史的な金石・大野地区の町並みと港が共生するゾーン

地区別空間利用計画

〈大浜・北地区〉

- ・大浜地区は、船舶の大型化や貨物量の増大に対応するため、更なる物流機能の強化を図る「物流（外貿関連）ゾーン」に位置づけます。なお、新たにリゾートホテルが建設され、滞在型の観光拠点が生まれると期待されるエリアを「リゾート関連ゾーン」とし、民間事業者と連携し、より一層の賑わい空間の創出を図ります。
- ・北地区は、石油ふ頭背後地を引き続き石油関連企業などの集積地として「エネルギー関連ゾーン」とし、五郎島ふ頭は、海上保安庁巡視船などが係留する「船溜まり関連ゾーン」に位置づけます。

〈臨港道路 大浜御供田線〉

- ・物資輸送強化のための道路ネットワークの強化（施策②-2）

物流（外貿関連）ゾーン

- ・外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化（施策②-1）

物流（外貿関連）ゾーン

- ・大浜沖合でのコンテナターミナルの新設（施策①-1）
- ・航路・泊地の確保（施策①-2）
- ・耐震強化岸壁の整備による災害時の物資輸送機能の確保（施策③-1）

リゾート関連ゾーン

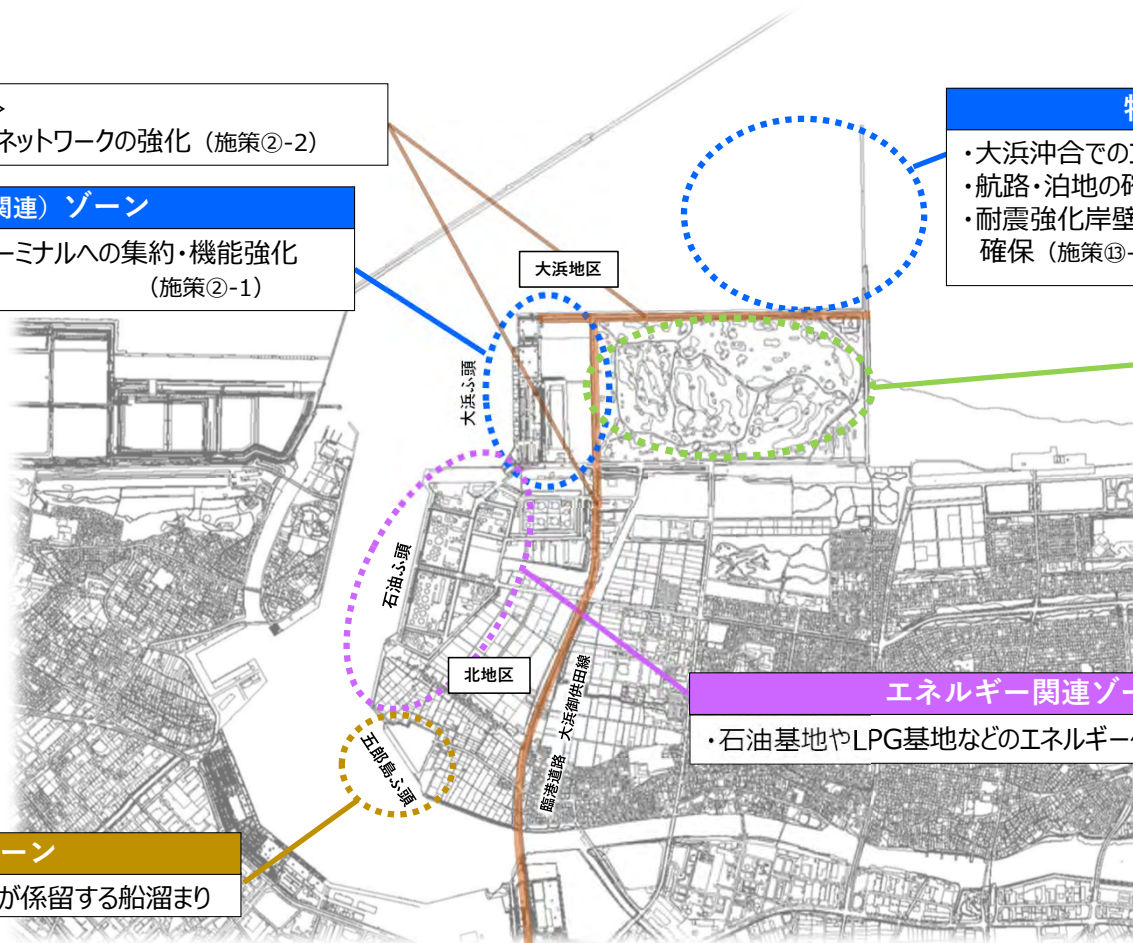
- ・新たな滞在型の観光拠点
- ・民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出（施策⑥-1）

エネルギー関連ゾーン

- ・石油基地やLPG基地などのエネルギー供給拠点の形成

船溜まり関連ゾーン

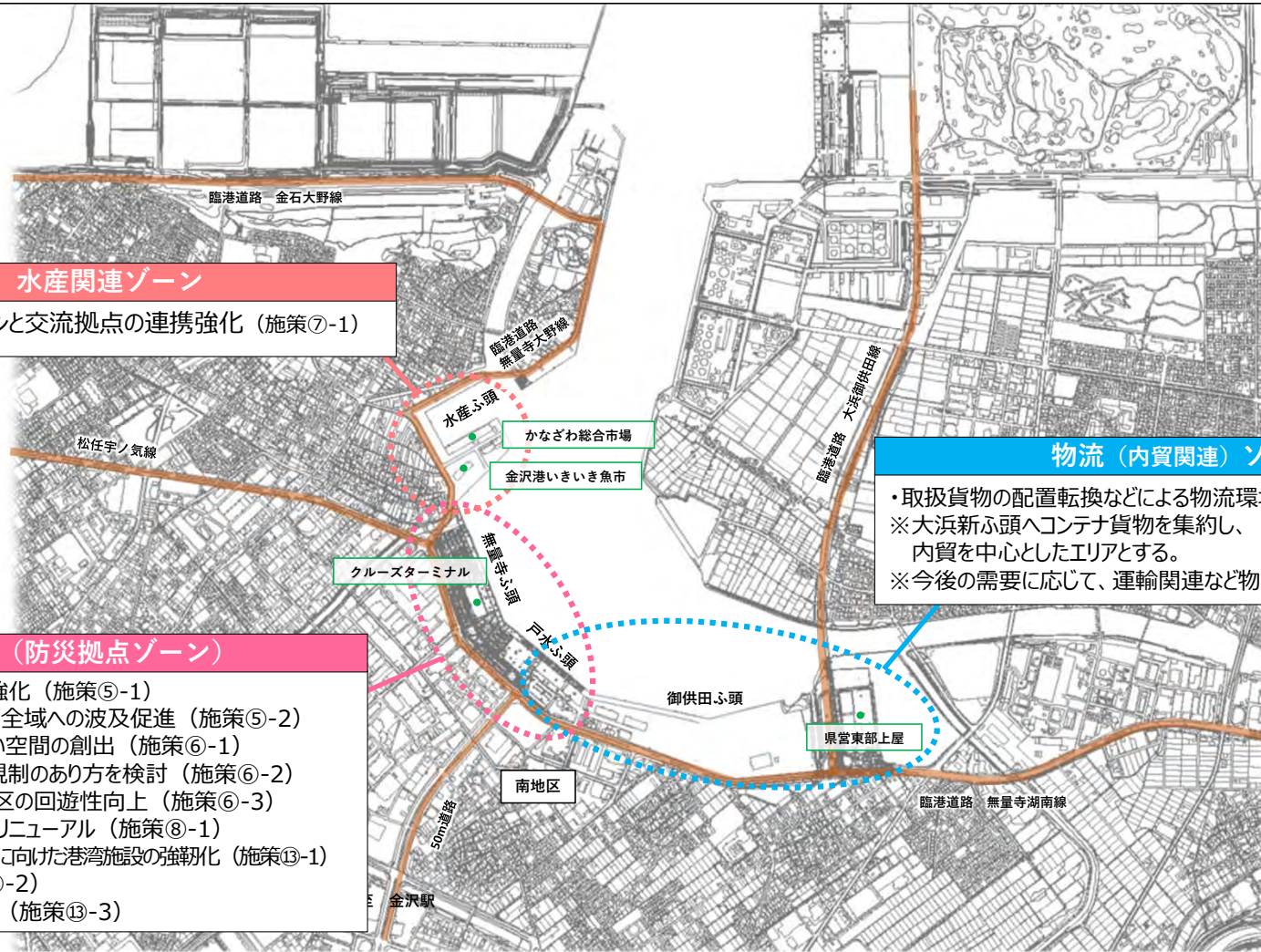
- ・海上保安庁巡視船、作業船などが係留する船溜まり



地区別空間利用計画

<南地区>

- ・御供田ふ頭は、コンテナ機能を大浜沖合へ機能移転し、内貿貨物を中心とした「物流関連ゾーン」に位置づけます。
- ・無量寺ふ頭及び戸水ふ頭は、外貿貨物を大浜国際ターミナルへ機能移転後、クルーズ船の増加や大型化に対応できるよう受入体制の強化を行い、質の高い賑わい空間の創出が図れるよう「交流拠点関連ゾーン」とするほか、大規模災害発生時には、被災地支援のための拠点として機能する「防災拠点ゾーン」に位置づけます。
- ・水産ふ頭は「水産関連ゾーン」として水産振興の拠点とするとともに、隣接する交流拠点と連携強化に努めます。



水産関連ゾーン
 ・水産関連ゾーンと交流拠点の連携強化 (施策⑦-1)

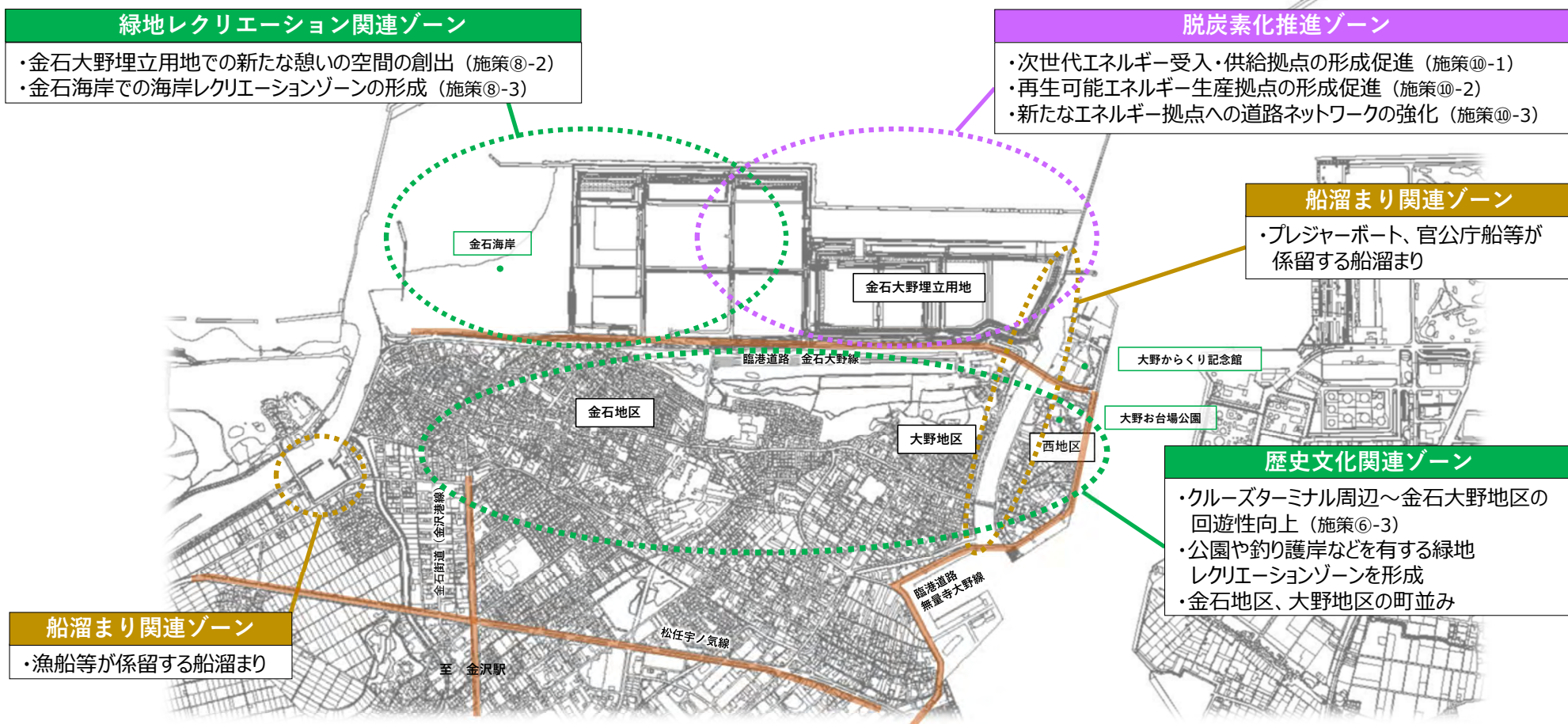
物流 (内貿関連) ゾーン
 ・取扱貨物の配置転換などによる物流環境の改善 (施策②-3)
 ※大浜新ふ頭へコンテナ貨物を集約し、内貿を中心としたエリアとする。
 ※今後の需要に応じて、運輸関連など物流機能を検討

交流拠点関連ゾーン (防災拠点ゾーン)
 ・多様なクルーズ船の誘致と受入機能の強化 (施策⑤-1)
 ・クルーズ船寄港による経済効果の県内全域への波及促進 (施策⑤-2)
 ・民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出 (施策⑥-1)
 ・クルーズターミナル周辺の土地利用や規制のあり方を検討 (施策⑥-2)
 ・クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上 (施策⑥-3)
 ・時代のニーズにあった公園・緑地などのリニューアル (施策⑧-1)
 ・大規模災害発生時における物流機能確保に向けた港湾施設の強靱化 (施策⑩-1)
 ・災害に強い防災拠点の構築 (施策⑩-2)
 ・災害支援のための港湾施設の強靱化 (施策⑩-3)

地区別空間利用計画

<金石・西地区>

- ・金石大野埋立用地は、金石側を金石海岸と一体となった自然環境を生かした「緑地レクリエーション関連ゾーン」に大野側は、今後の社会の動向を注視しながら、新たなエネルギーに対する要請に応じて活用を検討する「脱炭素化推進ゾーン」に位置づけます。
- ・旧大野川沿いは、引き続きプレジャーボートや官公庁船、作業船が係留する「船溜まり関連ゾーン」にします。
- ・伝統的な町並みが残る金石地区及び大野地区と、大野お台場公園や釣り護岸を有する西地区を「歴史文化関連ゾーン」に位置づけ、クルーズターミナル周辺と一体となった賑わいの創出を図ります。



船溜まり関連ゾーン

- ・漁船等が係留する船溜まり